

## 世界の人びとのための J I C A 基金活用事業 終了時活動報告書 (2024 年度採択案件)

1. 業務の概要	
(1) 案件名	日本語教室が繋ぐ地域と外国人
(2) 実施団体名	浦添市国際交流協会
(3) 実施期間	2024 年 11 月 13 日～2025 年 10 月 31 日
(4) 実施国	日本
(5) 活動地域	沖縄県浦添市
(6) 活動概要	<p><b>① 活動の背景：</b></p> <p>浦添市国際交流協会(以下、UIRA)では、平成 23 年度以降 様々な形で日本語教室に関する活動を行ってきた。その中で日本語の読み書きを学べる教室が欲しいという外国人からの要望も多く、「やさしいにほんご講座」と並行して日本語の読み書きを教える教室の設置が喫緊の課題であると考えていた。上記の状況を踏まえて、令和 5 年度には文化庁のスタートアッププログラムに応募し、地域日本語教室開講に向けて必要な要素の確認、講演会の開催を通じた地域の日本人のサポーターとのネットワーク構築等を行った。また、同じく令和 5 年度 CINGA(特定非営利活動法人・国際活動市民中心)が主催する文化庁事業「地域日本語教育実践プログラム日本語教師研修」にも参加し、地域日本語教育の実践に必要な知識を学んだ。</p> <p>これらの経緯により、JICA 基金活用事業に応募し、実際に地域の人々を巻き込んだ UIRA 主催の読み書きを学べる日本語教室を開講した。</p> <p><b>②活動の目標：以下の四点を活動の目標とする</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 浦添地域及びその近隣市町村に在住する外国人住民へ、日本語の読み書きを学ぶ場を提供する。</li><li>2. この教室を設置することにより、地域住民と外国人住民との間に「顔の見える関係」を築く場を作る。</li><li>3. この教室を設置することにより、孤立しがちな外国人住民を対象としたオープンコミュニティを作る。</li><li>4. 地域の多文化共生を前進させ、将来的に外国人住民を巻き込んだ防災等の地域活動に繋げる。</li></ol>

## 2. 業務実施結果

### (1) 実施した内容

<前期 全10回>

日時:令和6年11月13日、27日、12月11日、18日、  
令和7年1月8日、22日、2月5日、19日、3月5日、12日  
水曜日 19:00～20:30

場所:JICA 沖縄 にらいホール 3階 多目的室

講師:川野さちよ氏(沖縄国際大学非常勤講師、Umi にほんごオフィス)

受講者数(延べ人数):10回の合計:受講者数 67名、サポーター数 65名

日程	外国人受講者数	日本語サポーター数
2024/11/13	9	4
11/27	7	5
12/11	7	9
12/18	9	5
2025/1/8	7	7
1/22	7	6
2/5	5	5
2/19	5	9
3/5	6	7
3/12	5	8

実施方法:対面のみ。受講者一人一人が希望するレベルの日本語の学習ができるよう、レベル別、内容別にサポーターを振り分け、ペア、あるいはグループで学習する。受講者とサポーターのマッチングは原則として講師及びUIRAスタッフが行う。

<後期>

日時:令和7年6月11日、25日、7月9日、23日、8月13日、27日、  
9月10日、17日、24日、10月8日、15日、22日

水曜日 19:00～20:30

場所:JICA 沖縄 にらいホール 3階 多目的室  
(6月11日、25日のみ JICA 沖縄 本館 201号室を利用)

講師:川野さちよ氏(沖縄国際大学非常勤講師、Umi にほんごオフィス)

受講者数(延べ人数):12回の合計:受講者数 86名、サポーター数 147名

\*6/11と6/25は日本語サポーター対象のオリエンテーションを開催。

日程	外国人受講者数	日本語サポーター数
6/11	N/A	19
6/25	N/A	16
7/9	14	9
7/23	6	16
8/13	11	15
8/27	8	13
9/10	10	10
9/17	4	12
9/24	7	7
10/8	11	12
10/15	6	10
10/22	9	8

実施方法:対面のみ。受講者一人一人が希望するレベルの日本語の学習ができるよう、レベル別、内容別にサポーターを振り分け、ペア、あるいはグループで学習する。受講者とサポーターのマッチングは原則として講師及び UIRA スタッフが行う。初回の二回はサポーターオリエンテーションとし、受講者を入れて教室を開始する前に、日本語サポーターとしての心構えなどを学ぶ時間を取る。

## (2)実施成果:

・前後期あわせて一年間の講座を継続して実施したことにより、浦添市内外から多くの参加者を集めることができた。特に後期は、日本語サポーター登録を希望する日本人参加者が増え、日本語教育への関心の高まりを実感した。

・後期には、実際に日本語教師として活躍している方々や、日本語教師資格取得を目指すサポーターが多く参加したため、受講生の要望のあった日本語能力検定試験 (JLPT) 対策にも対応できた。また、この日本語教室のサポーターの中から少なくとも 4 名が、日本語教師資格取得のため専門学校での学習を開始しており、この教室活動を通じて日本語教育に携わる人材育成にも寄与できたと考える。

・前後期で参加者の属性にも変化が見られた。前期には市内在住の年配のご夫婦が受講生として参加しており、日本語学習の場としてだけでなく、浦添市内の「居場所」としての役割も果たしていた。後期には親子連れでの参加もあり、日本語支援を必要とする子どもたちの存在にも気づくことができた。特に中学生の女子生徒は、父親が参加できない日にも一人で継続参加しており、日本語教室が第二の居場所として機能している様子が見えた。

・一年間継続して実施したことにより、浦添市の日本語教室の存在が徐々に地域へ周知されつつある。電話での問い合わせ件数(教室実施前は年に数回あるかないかだったのが、実施後は毎月のように問い合わせがある)も増えており、地域における日本語教室の必要性を再認識する結果となった。

・前期では ALT 教員の参加が多かったのに対し、後期では地域で生活する外国人住民の参加が増加したことで、より当初の目的に近い日本語教室を実現できた。今後も継続できれば、「顔の見える」地域日本語教室として定着していく可能性は十分あるため、次年度以降の継続開講を目指したい。

## (2) 得られた教訓など:

・前期では日本語サポーターの数が足りず、マンツーマン授業ができなかったこともあり、後期はサポーターの募集人数を増やして対応したところ、受講者の数に対してサポーターが集まりすぎてしまった。受講者とサポーターの数のバランス、マッチングをどうするか、課題として残る。

・日本語サポーターの登録条件として UIRA への入会を必須としたため、日本人サポーターには初回に年会費を支払っていただいたが、外国人受講生は無料で参加できたため、1 回のみ参加にとどまり継続しなかった例も一定数あった。継続受講を促すために、少額でも受講料を設定すべきだったのではないかと反省している。

・前期は英語母語話者が大半を占めたため、クラス内の共通語が日本語ではなく英語となってしまった。その結果、英語が話せない受講者が疎外感を抱き、2 回目以降参加しなくなったケースがあり、改善点として認識した。

・後期では中国語母語話者が多く参加したが、残念なことに全員が 2 回目以降来なくなった。クラス内の言語運用だけでなく、マンツーマン形式の運営が合わなかった可能性もあり、受講者のニーズを満たしたクラス運営の難しさを実感した。

・受講者アンケートでは、「マンツーマン形式を続けてほしい」という意見と、「講義形式で体系的に学びたい」とい

う意見があり、両方の形式を同時に満たすことは難しいため、今後の運営方法が課題である。

・また、前期のサポーターからは「ビザ更新のために日本語学習が必要な外国人も多い中、短期滞在の ALT の交流のための日本語教室が必要なのか。学習目的の教室なのか、交流・居場所づくりが目的なのか、目的を明確化する必要があるのでは」との指摘があった。教室の性質が参加者の属性によって変化し、前期は交流中心の場となったことに違和感を持ったサポーターもいた。

・一方で、「生活場面に限らず、受講者が心の内にある感情を日本語で表現できるようになった」というサポーターの声もあり、コミュニケーションの場としては有効に機能していたことがわかった。

・教室のスタイル(講義形式かマンツーマン形式か)によって、学習中心の場となるのか、交流中心の場となるのかが大きく異なる。次年度以降に日本語教室を企画する際には、この点を踏まえて目的と運営方法を明確に設計する必要があると痛感した。

#### **(4) 今後の活動・フォローアップの方針**

・ひとまず、2025 年度中の日本語教室再開はないが、次年度以降の日本語教室の開講について、浦添市に協力を仰いでいるところである。UIRA だけでは人員も予算も足りないため、浦添市の国際交流課と協力して、次年度の日本語教室を運営できればと考える。

### **3. その他(エピソード・感想・写真など)**

#### **(1) 活動中のエピソード・感想など**

・前期日本語教室の最終日には、成果発表会を実施し、受講者それぞれがスピーチや歌などを通して日本語学習の成果を披露した。当日は 4 名の受講生が参加し、約半年間の学習の成果を自分の言葉で表現しており、受講者の成長を実感することができた。

・また、今年 10 月 29 日の日本語教室終了後、次年度開始が確定していないこともあり、多くの参加者から日本語教室で集まった関係者との別れを惜しむ声が寄せられ、日本語教室としてのコミュニティが形成されていることを実感した。そこで、11 月 21 日に「日本語教室 UIRA 忘年会」と称し、ポッドラック形式の交流会を実施した。会場は UIRA 事務所が入居する浦添市ハーモニーセンター 2 階交流室で、一世帯 100 円の施設利用料を徴収し、飲食は持ち寄り形式で開催した。結果として、参加・不参加の調整が容易で、参加者・運営側ともに満足度の高い会となった。一方で、「忘年会」という言葉に対するイメージが日本人と外国人とで異なることを改めて実感し、文化的背景の違いを踏まえた企画運営の必要性を感じた。

## (2) 活動の写真

<前期:2024年11月~2025年3月>



第一回目の日本語教室の様子。サポーターと受講者、それぞれ学びたい内容によってグループに分かれて、学習しています。



成果発表会の様子。受講生は日本語で原稿を書き、スピーチをしています。



成果発表会の様子。この受講生は日本語の歌で学習成果を発表しました。



前期日本語教室の参加者と。前列は受講者と講師、浦添市 CIR、後列はサポーターと UIRA スタッフ。

<後期:2025年6月~10月>



第一回目のサポーターオリエンテーションの様子。  
この時は、19名の日本語サポーター(浦添市 CIR  
一名含む)が集まりました。



授業の終わりには、その日学んだことをみんなと  
共有する時間を持ちました。



座学だけでなく、立って歩いて自分のことを話す時  
間もありました。また、子供も気軽に参加できる楽し  
いクラスでした。



後期の最終日に、いろんな背景を持った人達が一緒  
に一つのことを学ぶ機会は本当に貴重でした。

### **(3) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点**

本事業を JICA 基金活用事業として実施したことで、団体として以下のような大きな成果と成長が得られた。

まず、浦添市国際交流協会(UIRA)のみの予算では通年での日本語教室の開講は難しかったが、JICA 基金を活用させていただいたことで、前期・後期を通して一年間継続して日本語教室を実施することができた。これにより、幅広い層の受講者を受け入れることができ、地域における日本語学習支援の裾野を広げることにつながった。

また、受講者の多様なニーズに対応するための教材を購入できたことも大きな収穫である。前期講座では、ウェブ上で無料で配布されている教材を中心に活用していたため、学習内容やレベル設定に一定の制約があった。特にマンツーマン形式のレッスンでは、受講者の個別ニーズに学習素材が十分対応しきれず、指導方法にも工夫が必要であった。しかし、後期講座では基金の活用によって多様な教材を購入することができ、受講者ごとの課題や目標に直結した学習内容を提供できるようになった。この変化は学習効果を大きく向上させただけでなく、受講者の満足度向上にも直接つながった。

加えて、UIRA はこれまで浦添市からの補助金以外の助成を受ける機会が少なかったが、今回、JICA 基金活用事業に応募し、採択され、実際に事業を運営できたことは、団体としての活動の幅を広げる大きな契機となった。外部助成金を活用した事業運営の経験を得られたことにより、今後の事業展開の可能性も広がったと感じている。

さらに、基金活用の際の精算作業が簡素化されており、事務的負担が軽減された点も、事業運営において非常に助けとなった。

これらの点から、本事業は団体の基盤強化と発展に寄与し、UIRA が地域における日本語支援・多文化共生の中心的な役割を担ううえで、非常に有意義な取り組みとなった。